

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (橘高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

入学時から編入学試験を受けたいと考えていました。高校3年生の時に大学受験に失敗し、当時の担任の先生から編入学試験というものがあると教えていただき、編入学試験対策を受けられる聖母への入学を決めました。

Q.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

編入学試験のガイダンスはキャリアデザインの授業内で行われていたと思います。また、1年生の前期に編入学試験を受ける予定の2年生が相談会を開いてくれたため、どの時期になにを勉強するべきか、1年生のうちにやっておくべきことは何か、どのような勉強法が効果的か、など編入学試験に関する疑問を解消することができ、非常に役に立ちました。

Q.実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の前期から編入学試験対策の英語の授業を受け、数多くの大学の過去問を解き、文法を細かく解説していただきました。2年生の前期からはキャリアデザインの授業で小論文の添削をしていただきました。2年生の夏休み期間には、三瓶先生に何度も志願理由書を添削していただき、またキャリア支援センターの方に面接練習の機会を調整していただきました。

Q.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

学校生活と受験勉強とアルバイトの両立です。限られた時間の中で効率的に勉強できるよう、毎日計画を立てて勉強に取り組んでいました。1年生の後期からは、平日の空きコマや放課後に図書室でAERAを読み、小論文の対策を行いました。英語に関しては、高校の頃から好きな教科だったため、聖母に入学してから受験までの1年半の間、多くの時間を英語の勉強に費やしました。毎日システム英単語と、TOEICに特化した英単語帳の2冊を電車や休み時間などのスキマ時間を活用して暗記していました。また、休日など時間がある日には英語の授業で解いた過去問の復習や、自身で購入した英語長文問題に取り組みました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

聖母では、ディスカッションやグループワークなどのアクティブラーニング型の授業が多いため、明確な自分の意見を持ち、その意見を他者に伝える力を養うことができました。このことは、編入学試験の面接に非常に役に立ちました。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

早め早めの行動をすることと「体調を崩さないように」と言っていたことです。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①大学受験に失敗した直後だったため、次に向かって頑張ろうと思いつつも落ち込んでいました。

②学校生活の中では、行事や遊びを楽しみながらも「勉強しなきゃ」という気持ちがつきまとい、いつも編入学試験のことを考えていました。

③編入学試験前は、自分は他の人と比べて「これはできている」と感じることもあった反面「他の人の方が自分より編入試験対策に取り組んでいる」と感じることも多く、不安な気持ちでいました。

④受験後はやり切ったという気持ちが強くありましたが、10日後に他大学の受験を控えていたため、次の試験に向けて頑張ろうという気持ちでいました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入学試験は、学ぶ意欲を絶やさなければ、きっと叶うと思います。受験勉強をしながらも、モチベーションが下がってしまうことや、自分の実力に落胆することがあるかもしれません。しかし、常に「自分は何をしたいのか」ということを考える時間を設けながら頑張りたいと思います。